



西三ツ木囃子連 会長 三木俊一さん



野田青和会 師匠 中沢茂樹さん



高倉囃子連 師匠 田代甲平さん

各連は国内・国外交流が多く、どなたも参加歓迎。
 ◀テンポが速く複雑といわれる西三ツ木囃子
 ▶みごとなバチさばき。校長先生、師匠等も応援に。五年の男生徒はハネ（踊り）が好きと顧問の長谷川先生▼



「失敗しないで出来た」「お客さんが喜んでくれた」「みんなの前で代表で出来た」と感動を語るの第四十二回文化祭発表会で野田囃子を奏でた西武小学校おはやしクラブの皆さん。五年生は全員総合学習で学ぶという。中沢師匠は「学校のご理解はありがたく、十年を重ねて子若連OBの若衆が『私が教えるに行く』と言ってくれます。市全体に後継者育成の広がり大きな期待です。」

無形民俗文化財新指定(H16.6.3)のお囃子明日へ響け！伝統お囃子

■高倉囃子連 師匠 田代甲平さん
 「街道から外れていた高倉は文化が残りが残らず、祇園太鼓(S528)に次ぐ若狭流囃子の文化財指定は喜びです。現在、六人囃子の三交代一八人が主要メンバーですが天王さま祭りには親子が加わり、囃子手は二〇倍にも膨らみます。前夜、お招きした近隣の囃子連が同じ楽器で競演する宵宮はすごい気合ですよ。十年で一〇作品演じた昔話の芝居化を進め仕事唄を護り、演出を自慢に各世代に伝えています。」

■西三ツ木囃子連 会長 三木俊一さん
 「当囃子連は、勢いに満ちた三十代半ばまでの青年部が半数を占めて大活躍。二〇余名の子供部の指導にも当たっています。総勢は十代後半から七十代までの五〇余名。夢は現在いる五名を核とした女性部の設立です。テンポの速い五人囃子は独自の流儀で、お互い乗って来ると魅了されると笛の弟(三木茂さん)が言います。伝統の基本型を守る家族ぐるみの広い世代間交流はこの宝です。」

■野田青和会 師匠 中沢茂樹さん
 「失敗しないで出来た」「お客さんが喜んでくれた」「みんなの前で代表で出来た」と感動を語るの第四十二回文化祭発表会で野田囃子を奏でた西武小学校おはやしクラブの皆さん。五年生は全員総合学習で学ぶという。中沢師匠は「学校のご理解はありがたく、十年を重ねて子若連OBの若衆が『私が教えるに行く』と言ってくれます。市全体に後継者育成の広がり大きな期待です。」



■伝統の匠・宮大工、大工 桑田和夫さん(小谷田) **見えないところが妙技**

ふと、「ぎやらいい桑田」という銅板の屋根を囲んで作業をされていました。その一人がご主人の桑田和夫さんで、タレントのコント55号の二郎さんにそっくり。小谷田で生まれ、中学を卒業すると、大工の見習い奉公に入り、親方がお宮も造る匠だったので、宮大工の技も修行。十五年勤め、三十代で独立されて今では数少ない宮大工のお一人です。



▲「大工仕事が出来ても、宮大工にはなれないよ」とお庭のお宮の伝統技をいねいに説明される桑田和夫さん(66歳)

◎生涯学習情報紙「かがやく」編集委員

本紙「かがやく」の編集ボランティアを募集します。

募集内容
 ☆生涯学習情報紙「かがやく」(年2回発行)の企画・取材・編集等の活動
 ☆生涯学習活動に興味のある方。年齢・経験は問わず。

※あわせて「かがやく」で取り上げて欲しい人物や活動等も募集しています。

大募集!!

◎生涯学習サークル・教室情報

サークルや教室の情報をまとめた「いま学びの場～入間市生涯学習サークル・教室情報～」に掲載する情報を募集します。

対象
 ☆入間市内に活動場所があること。
 ☆一般市民が参加できること。
 ☆年間を通じて継続的に活動していること。
 ☆特定の政治・宗教・悪質な商法等に関わっていないこと。

生涯学習とは、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。

◎ご利用ください「生涯学習けいじばん」

生涯学習をすすめる市民の会では、市民活動団体やサークルが主催・共催するイベントや講演会等のPRとしてポスター等を掲示できる「生涯学習けいじばん」を市内6ヶ所に設置しています。

掲示できるもの：市民活動団体が主催・共催する催しのポスター(A3縦)で、営利・政治的・宗教的な目的を持たないもの。イベントを催さない会員や生徒募集のみは不可。

掲 示 期 間：1ヶ月以内
 けいじばんの場所：①富士見公園入口 ②入間市駅前プラザ内向陽台広場
 ③新しきを知る公園 ④文化創造アトリエ交差点角
 ⑤さくら公園 ⑥金子駅前公園

掲 示 申 込 方 法：掲示したいポスターを事務局まで持参。

問い合わせ・申し込みは…
 生涯学習課 2964-1111 (内線4123)

●編集後記●

●お囃子は組曲。静かに、歩くように、荒くと三種のテンポにおかめ、ひよつと、獅子、狐等がハネます。歴史も趣も深々の美!(E)
 ●時代の移り変わりの中で、何とか日本の伝統技が継承されていくて欲しいと、願わずにはいられなかった取材でした。若い方にこの声が届いてほしいです。
 ●入間市には、素晴らしい方が大勢いると知りました。皆様に紹介して生涯学習のお手本にしていただきたいと、今後の取材をがんばっていきます。
 ●速くの親戚より近くの他人。朝の挨拶から始まるお声掛け…。地域の生涯学習活動は先ず隣の人を大事にし、対話と支え合うことから始まります。
 ●ひまわりの種を小袋に詰める作業は、子供もお年寄りも参加する楽しい行事。包装紙でかわいい小袋を作ってく方もいるそうです。心温まる情景にただ今幸せ感満ち。(Y)

▼笑顔がステキな女性防火クラブのみなさん



女性防火クラブは平成十年に結成され、田辺さんは三代目の会長になるとのことです。会の活動は災害・火災の弱者でもある高齢者に主婦の立場で『防火診断』を行ない、助言・指導し、悲惨な事故に会わないようにと一人暮らしの方を対象に訪問しています。火を使用する台所、ストーブ周り、ガス器具の調子、住まいの周りに燃えやすい物を置いていないか等点検し、アドバイスしています。中には拒否される方もいますが、持ち前の明るさと笑顔で二度三度訪問し、やっと受け入れてくれるケースも多々あるようです。



田辺ひろこさん
女性防火クラブは平成十年に結成され、田辺さんは三代目の会長になるとのことです。

防災・防火に願いをこめて 明るさと笑顔で…女性防火クラブ



いま、学んで、輝いて



▲山本さんの和紙絵作品「倅せのひまわり」
阪神大震災の瓦礫の地で見るひまわり

「〇〇本を超えるひまわりが畑いっぱい咲き誇る七月頃は多くの友人が見に来てくれます。その時は冷やしたスイカを自転車に乗せ畑まで走って行くんです。嬉しくて…。種まきから苗の植え替え、水遣り、草むしり等、三キロも離れた畑まで自転車で往復しながらのひまわりの世話は努力も要りました。でも大きく咲いてくれると感動して疲れも忘れやすね」と、明るく語られる山本さん。

大輪の花に惹かれ、和紙ちぎり絵の立派な作品にまで仕上げた元気の源を伺うと、ひまわりの花の明るさ、まっすぐ伸びる枝の力強さからパワーをもらっているんですって。

ご主人の定年後、入間市に引越して、畑を起点に出会いの輪を広げたいと思っていたところ、ひまわりの種に出会ったそうです。高木久子さん（仏子）が代表を務める『はみんぐひまわりくらぶ』が配布したその種は、



「〇〇本を超えるひまわりが畑いっぱい咲き誇る七月頃は多くの友人が見に来てくれます。その時は冷やしたスイカを自転車に乗せ畑まで走って行くんです。嬉しくて…。種まきから苗の植え替え、水遣り、草むしり等、三キロも離れた畑まで自転車で往復しながらのひまわりの世話は努力も要りました。でも大きく咲いてくれると感動して疲れも忘れやすね」と、明るく語られる山本さん。



▲「ひまわりがもたらした倅せです」と、喜びを語る高木さん(左)と山本さん

事に花咲かせ、被災者を元気づけてくれた希望の種だったので。ひまわりが繋ぐ希望の輪は山本さんの畑で広がりました。小袋に詰められ、地域の方々に配布されたたくさんさんの種は、至るところで花咲かせ「癒される」「元気づけられる」との花便りが飛んできます。時には絵になり、俳句になり、写真となって戻って来るので、感動と喜びを感じられるそうです。

「ひまわりが繋いでくれたこの喜びと倅せの輪を、もつともつと広げていきたい」と山本さん。入間市だけでなく、もつと広いところを倅せの種が芽吹いてくれることを期待します。※種の配付は、4月下旬(予定)から市内各図書館窓口で配付します。

九州の福岡より武蔵工業団地内の会社に就職して七年。会社と独身寮を往復するだけの仕事人間でしたが、消防団活動でつき合いの輪も広がり、毎日の生活も充実してきました。会社も「時間、休暇等は心配しなくていいから、消防団活動に励み、社内



江藤貴之さん
本部における教育、休日の操法訓練等を受けて一年、近隣地域住民の生命・財産を守る任務に少し自信が持てるようになりまし。

「消防団員 一年生です。」

会員は子育てを終えた方が多い中、昨年結婚して間もない若奥様の入会があり、大変歓迎されました。また、火災予防の願いを込め、リサイクルプラザにおいて学校給食の廃油を使い、『火の用心石けん』を作って防火診断時に配付しています。いろいろな仕事を持ち、知識と経験を活かして高齢者と接し、今ではすっかり信頼されています。「次の訪問時にアドバイスした箇所がきちんと改善され、笑顔で迎えてくれた時間が一番うれしい」と話してくださいました。



▲現場到着から放水までの時間を競います

の防災・防火管理責任者になるための勉強と知識を身につけるように」と理解を示してくれました。

消防団の活動は毎月十日・二十日・三十日の三回、消防車で「火の用心」の呼びかけ、操法大会に向けての訓練(火災現場到着から放水までの時間を競う)、特別点検(服装・規律・車両整備等)、歳末特別警戒(毎年十二月二十五日(三十日)、新年の出初式等)があります。

いざ火災発生となれば召集されますが、幸いにも昨年度は県より「無



東町の人気者 腹話術師 永石珠江さん よっちゃん やっちゃん と共に思い出のせて…

「来年もね！ 来年もまた来てね！」この言葉で毎年施設訪問、気がついたら二十七年。喜びと生き甲斐を共有して、待っていてくれる姿がいつもまぶたに浮かぶそうです。

いたずら好きな「よっちゃん」、やんちゃな「やっちゃん」を相棒に老人ホームや福祉施設、学童保育や幼稚園の行事などに呼ばれて精力的に訪問。年平均四〇回ほど細く長くボランティア活動を続けています。

腹話術を始めたキツカケは、自分が幼稚園に勤めている頃、なかなか口をきいてくれない子どもがいて、その子の口を開かせるために、交通指導員の方々と一緒に講習を受けに行ったのが始まりとか。

ある時は掛け合い漫才、またある時はコント風と、人形との対話を通して観客を笑わせ、泣かせます。

「腹話術の魅力は、普段自分たちが言にくい事を人形が代わって言うことができることです。それに人形のいいところは、歳を



▲感動のあまり握手攻めに合う「よっちゃん」

とらな
いこと
です。
ですから
訪問する先に
よつては、友達
になったり、家族の一員になったり、そしてタイムリーな話題を提供します。施設にいらっしゃる方々にとっては、とても待ち遠しいんでしょね」と、いつまでも感動と心に残るものを伝えていきたいと熱く語ってくださいました。

現在、永石さんは、入間・狭山・所沢で活動中の個性豊かなバラエティグループ「マーガレットの会」(代表・原田加代子さん)に参加。各施設を毎月訪問して、共に楽しく和やかな時間を共有しています。



▲山菜莢別名「春小金花」「秋珊瑚」。1720年(享保)ころ薬用植物として渡来

古木・巨木と生きる 山菜莢と共に沢田 博さんご夫妻(下藤沢) 「ずーっと長く生かしたい」

「あらあ、何の花」「トト庭の山菜莢の木」「あーこれが」と感動を呼び早春の挨拶となる山菜莢は、春一番に咲いて「暖かくなるよ」と知らせてくれます。「嫁に来たころはまだスラッシュとしていて、最初から庭のメインでした。主人の若い時からの願ひどおり庭が出来まして、私も喜んでいきます。山菜莢はずーっと長く生かしたいですね。」

「縁側で、二人でお茶を飲んで眺めていると気分が和らぎます。樹齢は百三十年くらい。ここ数年で瘤が出てきました。」門の内は沢田博さん(89歳)ご夫妻の夢実現の聖域。昭和三十四年、近くから苗木と共に転居後、国内外へ旅をしては庭園を撮り、図面を見つめ、青年時代からの夢に取り組みされました。結局、母校、千葉大の前身・千葉高等園芸学校の日本庭園が基本になり、季節や木の育成で景観が変わる度に植替え、植木屋さんを悩ませたそうです。今は息子さんが芝刈りを担われているとのこと。

生涯をかけて築いたこの庭に
山菜莢の花いま盛りなり



「安心・安全」「自分たちのまちは自分たちで守る」を目標に、地域の方々の心の支えになれるようがんばりたいと話してくださいました。

火災表彰』を受けました。台風で災害が心配される時は、待機指示が出され、いつでも出動できるようにしています。